



はじめに

「医療現場にユーモアを！」。そう考えるようになったのは、5年程前にある医師が「笑いは特効薬」と考え、着ぐるみをつけて往診し「笑い」を誘っているテレビ放映に感動したのが始まりです。ユーモアは会話の潤滑油であり、笑いは緊張をほぐし、自然治癒力を高め、痛みの緩和やストレスの軽減につながると言われています。ほとんどの場合ずっと続く透析生活のなかで、ホッと心が和んだり、思わずフツと笑ってしまうような「時」が必要だと強く感じました。

そんな時、淀川キリスト教病院名誉院長の柏木哲夫先生の「ベッドサイドのユーモア学」という本に出会いました。先生は病院内でのコミュニケーションの手段として「川柳」を勧められていました。

川柳？ ん!? いいじゃない！